





学校名 屋久島町立金岳小中学校

項 目	活動内容等
1 活動内容等	<p>本推薦校は、屋久島町が推薦する屋久島型 ESD 教育を学校教育活動の中心に位置付け、小・中併設校の特色を生かし、小学生と中学生が連携しながら、環境教育、キャリア教育、郷土教育等を中心に据えて、児童・生徒の資質・能力の育成に当たっている。</p> <p>特に、SDGs の視点（11 番，12 番，14 番）を取り入れた活動は、学校だけでなく、全島民で実施する海岸清掃活動もあり、広がりを見せている。</p> <p>さらに、県内の学校、事業所へのポスター掲示、奈良県の学校との交流、令和 4 年世界遺産学習全国サミットでの発表等体験したことや学んだことを積極的に発信し、啓発活動にも取り組んでいる。</p>
2 活動状況等	<p>ロ永良部島が魅力ある島であることを全島民が願う中で、屋久島型 ESD 教育や SDGs の視点を取り入れた活動を進めている。また、島や島民の願いに沿った活動を小中学校でも推進したいという願いから、マリンワーカー事業に参加し、島の西部に位置する西ノ浜の清掃活動を実施している。また、学校独自の活動においても、総合的な学習の時間において、自分たちで清掃活動を立案し、実施している。</p> <p>マリンワーカー事業は、平成 19 年に屋久島が国立公園に指定されたとき、グリーンワーカー事業として全島民で取り組んだことが始まりである。また、総合的な学習の時間における清掃活動は、平成 24 年度から実施している。</p>
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	<p>マリンワーカー事業における西ノ浜清掃活動 総合的な学習の時間における西ノ浜清掃活動</p>
③ 月間又は年間活動回数	<p>年間 2 回の地域貢献活動（6 月と 10 月）</p> 

項 目	活動内容等
④ 活動のエリア	口永良部島 西ノ浜
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	<p>マリンワーカー事業における西ノ浜清掃活動</p>  <p>小学校：全児童参加 中学校：全生徒参加 島民の参加</p> <p>総合的な学習の時間における西ノ浜清掃活動 小学校：全児童参加</p>
⑥ 活動1回当たりの平均時間	約90分程度。
⑦ 収集物の処理	<p>総合的な学習の時間を利用して、西ノ浜海岸に漂着したプラスチック類のゴミを中心に収集した。またペットボトル(PET)とそれ以外のプラスチック類(ペットボトルふたや食品容器PS, ビニール袋PE)の2つに分別し、処分した。</p>
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>西ノ浜清掃活動は、全島民の活動と総合的な学習の時間との両方で実施している。</p> <p>小・中学校の総合的な学習の時間では、口永良部島がSDGsの視点を取り入れた持続可能な魅力ある島となることを願い、島内の水質調査をしたり、川柳を作成したりした。また、清掃活動から得られた海洋ゴミの現状をアピールしたポスターを制作し、鹿児島県内の学校や事業所へのポスター掲示、他県の小学校(奈良市立平城小学校)との交流で、海洋ゴミ問題や環境問題について発信し、啓発活動に努めている。</p>  <p>【写真は平城小学校とオンライン交流のようす】</p>
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	<p>マリンワーカー事業における西ノ浜清掃活動は、島内ほぼ全ての島民が参加する活動である。西ノ浜海岸以外にも美浦海岸、本村港の海岸清掃を地域住民と一緒に協力して実施している。また、今は噴火規制の為、立ち入り禁止となったが、ウミガメが産卵に来る向江浜の海岸清掃も以前は実施していた。</p>

<p>② 地域住民との協力活動</p>	<p>西ノ浜清掃活動は、地域住民との共同実施であるため、島民としての役割を自覚できる機会となっている。</p>
<p>③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応</p>	<p>令和4年2月の世界遺産学習全国サミットで発表した漂着ゴミ問題の内容を、令和4年11月の本校学習発表会でも再度発表した。このとき、発表を聞いた島民の方が、「漂着物が近くの国や地域から海岸に流れ着き、自分たちだけでなく、近隣の地域や国・世界全体で海洋ゴミ問題について真剣に取り組まなければならない。そのためにできることはプラスチックゴミを減らすためにきちんと分別して、リサイクルをしたり、マイバックの利用を推進したりしていく必要がある」とロ々につぶやいていた。</p> <p>海岸に漂着したプラスチック類のゴミを自主的に拾ったり、豊かな島の自然を未来まで守ろうとする意識を高めたりすることにつながった。</p> <p>【写真上は学習発表会のプレゼンのようす、下は制作した海洋ゴミ問題の啓発ポスターを見る島民のようす】</p> <p>本校の山海留学生は、それぞれの都市部（大阪、埼玉、千葉、神奈川）に戻り、口永良部島のことを児童生徒自身から発信し、都市部へも環境保全に対する意識を高めることにつながると考える。</p>



項 目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	<p>屋久島型ESD教育の一環としての活動であるため、環境教育との関係は深い、特に、西ノ浜清掃活動や水質調査、口永良部島の良さを主張した川柳の制作活動、地域や奈良市立平城小学校との交流は、児童生徒が環境教育としての問題意識を高め、より持続可能な地域にするためにはどのようなことができるのかを考える機会となった。また、児童生徒が主体的に環境問題に関する川柳やポスターを地域の掲示板に掲示しようと提案し、実践することができた。</p>
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	<p>児童生徒は「口永良部島のよさをこれからも残していくためにはどうしたらよいか」「島をより魅力的にするためにはどうしたらよいか」という島だけの考えにとどまらず、グローバルな視野でSDGsの視点を取り入れた持続可能な社会づくり・地域づくりを考え、行動できるようになった。 【写真は生活排水の汚れを調べる学習の様子】</p> 
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ CPTA海洋研修 口永良部島近海に生息する魚の生態を広島大学生から学ぶ活動。 ○ エラブオオコウモリの観察会 家庭教育学級で、島内の専門家からエラブオオコウモリの生態や特徴を学ぶ活動 ○ 白谷雲水峡の自然観察（集団宿泊学習）
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	<p>受賞歴なし</p>
(6) 校内外活動のための時間の作り方	<p>総合的な学習の時間、家庭教育学級、PTA活動等を活動の時間としている。</p>
3 その他特記事項	<p>特になし</p>

口永良部島を持続可能な島へ ～ E S D の取組～

屋久島町立金岳中学校

1 はじめに

E S Dとは、Education for Sustainable Developmentの略であり、日本では、「持続可能な発展のための教育」と呼ばれている。現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（thinking globally, act locally 地球規模で考え、足元から行動せよ）ことにより、現代社会の課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、また持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

この「持続可能な社会を創造していくことを目指す」という視点は、現行の小・中・高等学校等の学習指導要領の中に盛り込まれている視点である。そのためE S Dとは、この視点を意識しながら、各教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動を通じて実践されるものだと言える。

2 全体構想

本校は同じ屋久島町にありながら口永良部島という違う島にあることから、屋久島型E S Dの進め方の基本的な考え方である「世界自然遺産を素材にした学習」が実施しづらいという課題がある。毎年11月に行われる英語暗唱弁論大会や、3年に1度実施される集団宿泊学習など、屋久島で学ぶ機会はあるが、世界自然遺産の価値を見い出せたとしても、課題を自らの問題として捉えることは難しいように思われる。

そのため生徒が現代社会の課題を自らの問題として捉え、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことができるようになるためには、屋久島型E S Dの視点を取り入れた、口永良部島独自のE S Dカリキュラムの作成が必要であると感じた。そこで、口永良部島独自のE S Dを総合的な学習の時間に実施することで、生徒の「学び、考え、行動する力」と「自尊感情」を高め、「生きる力」を育成していきたいと考えた。



3 取組の実際（実践紹介）

SDGsの主な活動分野

- 4 質の高い教育をみんなに
- 12 つくる責任 つかう責任
- 14 海の豊かさを守ろう



(1) ポスター作成と発送

昨年度参加した「世界遺産学習サミット in 屋久島」での取組をさらに多くの人に知ってもらうため、ポスターを作成した。主な活動場所となった西ノ浜海岸を生徒が撮影し、手の写真を合成した。ポスターの一部にQRコードを印刷し、読み取れば「世界遺産学習全国サミット in 屋久島」での発表を閲覧することができるようになっている。

作成したポスターは町内の全小中高校に送付し、掲示をお願いした。また、世界遺産学習全国サミット in 屋久島で交流を持つことができた奈良県内の小中高校、海洋ゴミという同じ課題に取り組んでいる県内の中学校、環境未来館、県民交流センターなどの公共施設、アミュプラザ鹿児島等の商業施設にも送付し、掲示に協力をいただいた。ポスターは県内外の様々な施設に送付し、少しずつではあるが現在もアクセス数は伸びている。



(2) SDGs ジャーナルを活用した学習

SDGs ジャーナルとは、朝日新聞社が中高生向けに発行しているSDGsについて楽しく学ぶための新聞である。

申し込みをすると、無料で新聞と付箋を提供してもらえる。新聞記事を読みながら、関連あると考えられるSDGsの付箋を貼り、その理由を記入する。互いに発表することで、様々な視点から物事を考える力を付けるのが目的である。



カーボンニュートラルについての記事について、多くの生徒は自然環境に関する項目13～15、技術革新、経済成長に関する項目7～9、持続的な社会についての項目11、12について関連を述べたが、一人の生徒が「16 平和と公正をすべての人に」を上げた。温暖化が進むと気温上昇により食糧問題が起きる可能性があること、住みづらくなった場所では土地の争いが発端で戦争が起きるかも知れないと根拠を述べた。その意見を聞いた他の生徒が、戦争が起きたら飢餓が起きたり、学校に通えなくなったりするかもしれない、男の人だけ戦争に行かないといけな

くなるかもしれない等の意見を主張し，最後にはほとんどの項目が関連あるという結果となった。

この取組を通してひとつの物事を多角的に考える力が付いたことを実感できた。

(3) 職場体験学習との関連付け

本校では本年度初めて職場体験学習を島外で実施した。屋久島町内の企業や商業施設に依頼し3泊4日で職場体験学習を行った。多くの事業所で9:00~16:00頃まで体験をさせていただき，民宿に帰ったあとは持参したノートパソコンを使い，その日の体験活動の内容をパワーポイントにまとめた。完成したパワーポイントは，7月に行われた授業参観にて発表することができた。



日常の様々なできごとがSDGsと関連していることを体感するため，パワーポイント作成後はそれぞれが体験した事業所での仕事がSDGsとどのように関連していたかを考える機会を持った。ほとんどの事業所で4つ程度の項目と関連があることがわかった。このことについては11月に実施された学習発表会で展示発表した。

(4) 児童生徒会活動での取組

SDGsを総合的な学習の時間の中だけではなく，日常生活の中に浸透させたいとの思いから，児童生徒会活動の月目標に「SDGsについて考えよう」という目標を取り入れた。児童生徒会長を中心にどのような活動をしたら小学校2年生～中学校3年生までがSDGsについて一緒に考えることができるかについて案を出し合った。それが「SDGsかるた」である。これはNHKの番組「ひろがれ！いろとりどり」の中での企画である。本来は番組を視聴して，ワークシートに沿ってカルタ作りをするのだが，全校児童生徒と一緒に番組を視聴できる時間を持つことができなかつたため，説明書を児童生徒会で作成し，各自でカルタを作ってもらったことになった。



作成内容としてはカルタの読み札となる言葉を「5・7・5」で作成し，それにあった絵札の絵を描くという内容である。今回は掲示物として作成したので，A4の用紙の上段を絵札，下段を読み札として作成してもらい，全校児童生徒分を玄関前に掲示した。今回はSDGsについて考えることを優先し，読み札の頭文字を決めていなかったため，同じ頭

字の読み札が多くなり，読み札の頭文字を決めていなかったため，同じ頭

文字から始まる札ができてしまい、カルタとしては活用できなかった。しかし、児童生徒会の活動反省のなかで、来年度はカルタを作るだけではなく、遊びながらSDGsについてみんなで考える時間を持ちたいとの反省が出てきたので、来年度は事前の注意事項などを加えて実際に遊べるSDGsカルタ作りをしようと計画している。

(5) 学習発表会での舞台、展示発表

11月に行われた学習発表会では、昨年「世界遺産学習全国サミット in 屋久島」で発表した内容のダイジェストバージョンを舞台上で発表した。「世界遺産学習全国サミット in 屋久島」が実施された2022年3月、口永良部島はインターネット環境が整っておらず、天候によってつながらない日も多かった。生徒たちの発表はインターネットによって配信されていたものの、口永良部島の島民のほとんど見ることができなかったのである。



そこで、生徒たちも島の現状を島民に伝えたいとの思いがあり、今年の学習発表会で発表をすることとなった。時間の都合上、すべての内容を発表することはできなかったが、展示作品（海岸で拾ったプラスチックゴミで作ったSDGsのロゴマーク、口永良部島周辺の海流を示したジオラマ、QRコード付きのポスター）も含め、昨年度サミットで発表した内容を島民に伝えることができた。



(6) ESDウィークでの取組

ESDウィークに向けて、今年度の活動をまとめるための動画を作成した。作成に当たって、取り上げる内容を考え、台本の内容を検討し、動画に入れ込みたい作成物を選択することで今年度の振り返りを行うことができた。



また、他校の屋久島型ESDの動画視聴に関して、同じ町内ではあるが、島外ということで、取組の内容が全く異なり、屋久島の文化や歴史など、全く知らないことがたくさん出てきた。質問内容を事前に確認することで、答えを準備することができれば、子供たちは緊張も少なくすんだのではと感じた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 本校での取組を全国に広く発信することができた。
- イ 物事を多面的，多角的に考え，判断する力を養うことができた。
- ウ 日常生活や行事など様々なこととSDGsを関連付けて考えられるようになった。
- エ 他校と交流を持つことで，自校の取組みについて振り返り，他校の取組を知ることができた。

(2) 課題・改善策

- ア 総合的な学習の時間の取組を計画通り実施することができなかった。
 - ESDとその他の取組に分けて計画を立てず，すべての活動をESDと関連付けて考え，計画を立てる。
- イ 最後まで全員で取り組むことができなかった。
 - 3年生の受験を考慮して，活動は2学期中に終えるよう計画を立てる。
- ウ ESDの視点に立った各教科における取組が不十分である。
 - 各教科の年間指導計画に，ESDの視点を生かせる単元を明確化する。

5 おわりに

本校は口永良部島出身の生徒と，他県出身の山海留学生とで構成されている。口永良部島出身の生徒は島の自然，文化，環境に誇りを持ち，口永良部島について知識を多く身に付けている。山海留学生として本校に通う生徒は口永良部島についての知識を持たない生徒がほとんどであるが，島を外から見ることでその素晴らしさに気付くことができる。口永良部島出身の生徒と山海留学生の生徒が協働して意見を出し合い学習していくことで本校にしかできないESDの活動を進めていくことができる。来年度もESDやSDGsの視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントを行っていききたい。

6 引用・参考文献

- 文部科学省（2018）「中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」
- 文部科学省（2022）「（中学校編）今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」